

剽窃について

剽窃とは何か？

剽窃とは、意図的であろうとなかろうと、適切なアクノレッジメント（出典列挙、謝辞）なしに、他人の著作や評価済みの自分のオリジナル著作をコピーしたり、自分の著作に含めたりする行為です。

最も一般的な剽窃は、他の出典から直接資料をコピーして貼り付けたり複製したりすることです。資料には、コア・リーディング・テキスト、Actedリソース、インターネットや教科書から直接入手した情報などが含まれます。

よく準備した受験者であれば、いかなる外部資料からもコピーを行う必要はないですし、一般的にはこれを行わないことが望ましいとされています。

IFoAは、「定義」、「原則」、「基本リスト」、「規則」などの基本情報を問う試験問題の解答が、復習の一環として暗記されている可能性があることを認識しています。これらの解答は、学習教材の内容と同一または非常に類似している可能性があります。試験官や採点者はこれらの問題に精通しており、このような類似性が確認されたとしても、通常、受験者が剽窃であると調査されることはないでしょう。

基本的な情報の提示を求める問題でない限り、可能な限り自分の言葉ですべて回答することをお勧めします。問題に解答するために、学習教材から直接引用した場合は、そのことを明記する必要があります。外部資料を直接参照する場合、それはあなたの原稿全体のごく一部であるべきであり、問題に関連するものでなければならぬことを思い出すべきです。

試験官は、学生に学習した教材をそのまま大量にコピーして解答することを求めています。これは、盗用とみなされる可能性があります。また誤解を避けるために言うと、多少の修正を加えたのみで大量の学習教材をそのままコピーすることも含まれます。

なぜ剽窃が問題になるのか？

剽窃は、誠実さに反する行為です。他人の著作を自分のものとして提出することは、不適切な行為であるだけでなく、学習プロセスを完了できていないことを意味します。

剽窃は非倫理的であり、あなたの将来のキャリアに深刻な結果をもたらす可能性があります。IFoAの会員の場合は、アクチュアリーコードを遵守しなければなりません。

あなたは専門的な資格の取得を目指して勉強しており、それには公共の利益のために行動する

ことを含む責任が伴います。剽窃をする学生は、専門職資格の理念を損なうと同時に、学習プロセスの重要な部分を失うことになります。

最初は、自分自身の意見を展開することが非常に難しく、事実を理解しようとするあまり、学習中の教材を言い換えてしまうことがあるかもしれません。IFoAはこのことを意識して、試験において限られた量であれば言い換えを認めています。IFoAの試験は、学習によって培った知識の応用力を証明できるように設計されています。批判的に評価し、異なる論点を検討し、自分自身の結論を発表することを学ぶことで、自立した思考ができる者になることが求められています。

剽窃を避けるには

評価のために提出するすべての著作は、自分自身のものであることを確認する必要があります。

定義や原則のリストなど、IFoAがあなたが暗記した可能性があると認める内容を問う問題では、通常、そのような類似性が確認されても、剽窃として調査されることはありません。他のタイプの問題に答える際、あなたの回答に他人の著作物である引用、理論、アイデア、データ、その他の資料が含まれている場合、出典を明記するためにあらゆる妥当な措置を講じなければなりません。これには、すべての教科書、学習教材、インターネット上の情報源が含まれます。

剽窃に種類があるか？

剽窃には、以下のようなさまざまな形態があります。

● 明確な通知のない逐語的な引用

引用する場合は、必ず出典を明記する必要があります。どの部分が自分自身の著作であり、どの部分が他の資料を利用したものであるか、常に試験官に明らかにしなければなりません。

多くの受験者が、試験で使用するためにコア・リーディングから重要な事実を学んでいると理解しています。試験官や採点者は、このような問題をよく理解しているので、定義や原理を列挙するような内容でこれを再現することは問題ありませんし、通常、引用された資料のごく一部が含まれていても、受験者は調査されることはないでしょう。

● 明確な出典記載のないインターネットからのカット＆ペースト

インターネットから得た情報は、試験問題の答案の横に（URLを含めて）適切に参照を記載する必要があります。

- パラフレーズ

他人の著作物を、単語をいくつか変換したり、順序を変えたりして言い換えることは、使用した著作物に対する正当な出典を示さない場合、剽窃となります。

答案用紙の中で原文に言及するだけでは不十分で、言い換えた文言が完全に自分のものであるかのような誤解を与えないようにしなければなりません。定義や原則のリストなどの内容に関する問題に対して、引用した内容のごく一部を参照せずに含む場合は、通常、受験者は調査を受けることはありません。

試験問題に答える際、出題された情報を批判的に評価・分析することで、あなたがこのテーマを真に理解していることを証明することを、試験官は求めています。

- 専門機関や他の人が書いた資料の利用

自分の著作の制作に専門機関を利用してはいけませんし、自分のために書かれた資料を、たとえその人の同意があったとしても提出してはいけません。

- オープンブック試験における参考文献に関するガイダンス

自分の著作でないものを認めることは、あらゆるビジネス活動において基本的な要素です。試験も同様で、オープンブック環境では、教科書、コア・リーディング、インターネット・サイトから直接素材を使用する場合は、「参照」を記載する必要があります。これには、定義、リスト、表、チャートなど、自分の言葉で書かれていない資料が含まれる場合があります。注意すべき点として、定義や原則のリストなどの内容が要求される場合、試験官や採点者はこれらの問題に精通しているため、通常、参照せずに少量の引用をしても、受験者は調査されません。

引用の方法はさまざまですが、IFoAの試験においては、採点者が引用している著作物の出典を特定できるような、シンプルな参照システムを求めています。

例えば、「IFoA SA7 Core Reading 2020, Unit 2, Page13, Paragraph 3.4」のような簡単なものでよいでしょう。参照する文章や段落の末尾に記載してください。インターネット上の資料の場合は、<https://www.economist.com/leaders/2021/03/31/message-in-a-bottleneck> のような形式でもよいでしょう。

重要なのは、シンプルでありながら、自分の著作でないことを認め、出典を採点者に示すことです。私たちが推奨するのは、すべて自分の言葉で回答することです。